

丹波篠山市立城南小学校 学習や生活に関する学力向上プラン

丹波篠山市学力・生活習慣状況調査（以下「市調査」）及び全国学力・学習状況調査（以下「全国調査」）は、各教育委員会や各学校が児童生徒の学力や学習状況を把握し、学習指導や生活指導の改善等に役立てることを目的として実施されています。

本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であることや、学校における教育活動の一側面に過ぎないことなどを踏まえつつ、結果をもとに授業改善等を行うため、「学習や生活に関する学力向上プラン」を作成しました。学力の定着状況をご理解いただき、子どもたちの学習や生活習慣の改善、学校の教育活動に対してご支援いただければありがたいと思います。

【全国学力・学習状況調査及び丹波篠山市学力・生活習慣状況調査結果の概要】

全体的な状況

- ・市調査（5年生）は、算数で、基礎的な内容、知識・技能、領域では、「数と計算」、全国調査（6年生）は、国語は「話すこと聞くこと」「書くこと」、算数は「データの活用」に定着が見られました。これは普段の授業を大切にし、基礎基本を身につけるため意欲的に取り組む姿勢が結果に表れたと思われまます。特に6年生の定着は、昨年度までに課題があると思われる領域について学習を深めたことで確実に身につけていると感じます。
- ・学力調査と生活調査との相関関係として、学力が高い児童ほど「ものごとを最後まであきらめずにやりぬく」「インターネットやスマートフォン使用時間が短い」「就寝時間は9時ごろ」「1ヶ月の読書量が5冊以上」と答える傾向がみられました。粘り強く取り組む姿勢、学習環境を整えること、読書量を増やすことが自ら学ぶ習慣を身につけ、学力向上につながっていると考えられます。

課題と対応

国語

自分の考えを的確に表現し、わかりやすく書いたり、伝えたりする力の育成

- ・5年生は特に「話すこと聞くこと」及び「活用」の領域、6年生は「言語文化に関する事項」に課題が見られました。ことわざや慣用句など言葉の学習に興味をもたせるなど、言語に関する基礎的な力を伸ばす学習と同時に、筆者や相手が何を伝えたいのか、話の中心や筆者の要旨を考えながら読んだり、自分の考えをわかりやすくまとめたりする学習を進めます。

算数

思考過程を表現し、主体的、対話的に学び合える力の育成

- ・5年生は「思考・判断・表現」及び「図形」で、6年生は「数と計算」及び「変化と関係」に課題が見られました。基本的な計算力や知識はついているものの、高学年で学ぶ小数や分数の計算についてはまだ定着が十分でない傾向にあります。また、自分の考えを言葉や式を使って記述することや理論的に説明することが難しい傾向です。今後は、基礎基本のさらなる定着を図るとともに、自身の思考過程を言葉にしたり文章に書いたり、対話的に学び合う学習を進めたりしていきます。

学習・生活習慣

生活習慣の改善と自己有用感の高揚

- ・3～6年生とも昨年度から引き続き「生活習慣」の項目が全国平均より低いことが分かりました。「朝食を食べる」「自分で起きる」「寝る時間」「スマホやゲームの時間」など基本的な生活習慣が乱れている様子が見られます。また、学級の友だちや、保護者、先生から認められている、役に立っているという自己有用感が低い傾向も見られました。学校だけでなく家庭と連携し生活習慣の改善を進めるとともに、子どもたちが活躍できる場を作って、認められる機会を増やしていきます。

【保護者・校区の方へのお願い】

家庭での生活において、「平日のテレビ・動画、インターネット・ゲームの時間」は、全国より長い傾向が見られました。また、生活習慣に課題があり「朝ごはんを食べる」「早寝早起き」「読書週間」などご家庭で規則正しい生活習慣の定着をよろしくお願ひします。アンケートでは、「社会参画」のスコアが全国の平均よりも高い水準にありました。これは日頃から地域の行事に参加をし、関心を持っていることを示していると思われまひます。本校の子どもたちの場合は、日頃からクラブ活動や総合的な学習の時間を通して地域の方にお世話になっていることも大いに関係していると考えられまひます。今後とも地域やさまざまな方とのつながりを大切にした教育を進め、学校が楽しい、城南が好きと思える子どもたちとなるよう教職員が共通理解をはかり、児童の健全育成を目指したとりくみをすすめていきまひます。